

「事業名：福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み」 2020年度事業の概要

東京農業大学 連携市町村：浪江町

現地拠点：双葉郡浪江町幾世橋六反田7-2 浪江町役場庁舎(3階農林水産課内)

事業のポイント

■ 浪江町の農業復興のボトルネックとなっている“ソフト面”を支援するため、東京農業大学の“復興知”を結集し、学生を中心とした取り組みを展開する。

① 就農拡大への取組み ② 6次産業化推進の取組み ③ スマート農業推進の取組み を通じ、“復興”から一歩進んだ挑戦を含む農業の“新興”を目指す。

■ 浪江町の農業再生の課題(担い手不足など)は、正しく日本の遠くない未来の農業課題に等しい。これらの取組みを通じ、日本の農業課題解決の提言を行う。

■ 実業として復興に取り組む(株)舞台ファームとも連携し、浪江町と「産官学一体」となって、未曾有の災害に対する、農業再生のソリューションの提案を実施していく。

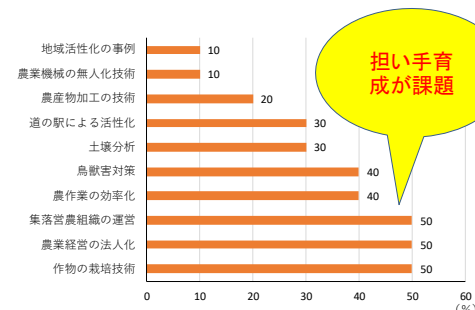


図1 参加を希望する講演会、農業セミナーのテーマ（複数回答）
資料：2019年12月14日・15日に実施した町民アンケートより作成。

2020年度の活動内容

■ 本学の3キャンパス(世田谷・厚木・オホーツク)において、「復興浪江学」を展開し、学生の参画意識を高め、過去のワークショップの成果等から、**新規就農**、**6次産業化**、**スマート農業の推進**に取り組む。

■ 町民向け「東京農大・浪江町復興講座」を複数回実施し、「道の駅」開業に向けた**商品開発**を本格化。

■ 「(仮称)復興農学会」の設立に向けた農学系大学等の連携に向けた取り組み。

① 全学的な取り組み

- ・学生向け「復興浪江学」の展開、農作業体験イベント(田植え・収穫作業等)、スマート農業の実践
- ・町民向け「復興講座」、シンポジウムの開催
- ・地元産品による6次産業化支援(商品開発とテキスト作成)



② 各研究室・ゼミ単位によるプロジェクト活動

- ・ピーポー・小麦支援
- ・エゴマ支援
- ・花卉支援
- ・担い手育成調査



浪江町での農作業



浪江町での商品開発向けWS



取り組みによって得られる成果

- ・現地農業者との交流による就農意識の醸成／新規作物・新商品開発による6次産業化
- ・スマート農業推進と農業生産法人の育成／就農施策の提言および帰還農業者・新規就農者の増加